

1. 基本情報

渡航先国名・地域名 (☆)	台湾
滞在都市 (☆)	台北
留学先大学等名 (☆)	国立台湾大学
留学先での所属学部/研究科 (☆)	社会科学院 経済学部
留学先で主に使用した言語	英語
渡航先への入国日 (☆)	2017年 9月 4日
渡航先からの出国日 (☆)	2018年 1月 18日
渡航先国での滞在期間 (☆)	136日
同伴者の有無・続柄・年齢等	無
その他	

2. 留学先の大学に関する情報

2. 1 授業に関する情報

履修科目名称	Principle of Economics
履修期間	1 Semester
授業時間 (○分×△回)	50分×3コマ (週1) 50×1コマ (週2)
授業形態 (講義・セミナー)	週1の3コマは講義、週2の1コマはTAセッション
取得単位数	4
履修科目名称	Macroeconomics
履修期間	1 Semester
授業時間 (○分×△回)	50分×3コマ (週1)
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	3
履修科目名称	Accounting
履修期間	1 Semester
授業時間 (○分×△回)	50分×3コマ (週2)
授業形態 (講義・セミナー)	週1講義、週1TAセッション
取得単位数	3
履修科目名称	General Chinese Language Course
履修期間	1 Semester
授業時間 (○分×△回)	50分×3コマ (週2)
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	3
履修科目名称	
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	

授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
留学生（日本人）の割合	割合はわからないが、どの授業でも2, 3人の日本人留学生を見つけることができた。
成績評価の方法（試験・課題の数や分量等）	だいたい試験60% 課題30% 出席10%程度。 Principle of Economicsの課題は多かったが、他は普通。成績評価は大阪大学より厳しくないと思った。
履修科目の制限等（あれば）	とくになし
（英語圏以外の場合） 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	英語での開講科目数は十分にあった。ほとんどの教授は聞きとりやすい英語を話した。一度授業中に「重要な連絡なので中国語で話します」と言われたことがあり困ったが、友人が助けてくれた。
語学に関するサポート(特別授業、チューター、イッテイティングに関するサポート等)	とくにサポートは受けなかった。中国語の授業を受講している学生のうち、希望者は追加で補習を受けられる。
授業内での留学生に対するサポート等	とくに無し
その他	

## 2. 2 福利厚生に関する情報

大阪大学経済学研究科/経済学部  
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

大学内での福利厚生施設(生協・購買・食堂)について	阪大のように、生協・食堂が大学内に多数ある。
図書館について	総合図書館、社会科学院の学生のみが使える専用図書館。
保健センター等の有無	あり。初回診察には電話予約が必要。
クラブ・サークル等について	ジャグリングサークルに所属。9月中旬に、サークルオリエンテーションがあった。
留学生へのサポート	日本語専攻の台湾人学生からメールで連絡がきた。全ての留学生にボランティア学生が1人振り分けられるらしい。
オリエンテーション等学校主催の行事について	寮のチェックイン翌日に大学内でオリエンテーションがあった。
現地の学生との交流について	普通に過ごしていればあまり接点はないが、授業で積極的に話しかけたりサークルに入ったりすることで仲良くなれた。
他の留学生との交流について	専門科目の授業では、あまり交流がない。中国語の授業で、多くの留学生と仲良くなった。
学外での活動について(地域コミュニティ活動等)	土日は毎週のように地域のお祭りやヨガ・自然探索等のアクティビティが開催されている。
長期休暇中の過ごし方	正月休みは大晦日と元旦のみ。他は通常授業。
その他	

### 3. ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類(☆)	短期停留ビザ
ビザの取得手続きについて(申請方法、申請から取得までの所要期間等)(☆)	通常は1日で発行される(追加料金を払えば当日発行)。入学証明として、台湾大学から郵送で送られてきた証明書原本1枚と、学部からPDFで送られてきた証明書1枚が必要。
利用航空会社	チャイナエアライン
入国の際の現地空港名	桃園国際空港
空港から滞在先への移動について(交通手段や所要時間)	タクシー利用で空港から寮まで約1300円。約1時間30分。寮の最寄り駅まで、電車(160円)でも迷わないと思う。
入国審査について(提示した書類、審査官からの質問等)	ビザのみ。質問はなし。
渡航後の手続き(在留届の提出、外国人登録等)	ウェブ上で在留届を提出
その他	

### 4. 金銭に関する情報

奨学金の受給	無(学部からの補助金のみ)
奨学金名	

奨学金月額受給額（円）	
入国時に用意した金額	約55万円
クレジットカードについて（カード会社名・日常の利便性）	VISAのキャッシングを利用。クレジットカードは日本より使えないところが多い。
留学中に利用した銀行名	なし
現地での銀行口座開設について（開設の有無・手続き等）	開設しなかった
デビットカードの使用について	使用しなかった
日本からの送金方法について	入国時に現金30万円
1ヶ月の生活費（目安）	約7万円
その他	

## 5. 暮らしに関する情報

### 5. 1 住居に関する情報

住居の種類（学生寮（一人部屋・二人部屋）・アパート等）	水源寮 1人部屋
家賃	月7400元（渡航前に1か月分、チェックインの際に2か月分の頭金が必要。チェックアウトの際返金される。）
住居を探した方法・時期	台湾大学の学生登録の際、ウェブ上で申し込み
荷物の運搬方法 （ハンドキャリー、国際宅配便（会社名、プランも）等）	宅配便は利用しなかった
その他	

### 5. 2 食生活についての情報

普段の食事（自炊・食事つき学生寮等）	寮の共同エリアに簡単なキッチンがあるが、基本は外食。
1ヶ月の食費	約9000元（約3万4千円）
その他	贅沢しなければ1食70元程度でお腹いっぱい食べられる。

### 5. 3 その他日常生活に関する情報

電話について	台湾の通信会社とは契約しなかったので電話は。日本で契約していたスマホを持って行って、Wi-Fi 環境下でのみ使用した。
インターネットについて（Wi-Fi 環境等）	街や電車内でフリーWi-Fi が使える。また、大学内では学生用のWi-Fi が与えられる（学生登録の際300元支払う）
コンピュータについて	自分のノートパソコンを持参。図書館にもパソコンがある。
郵便について	日本と同じような郵便局がある
交通機関について	台北内は MRT という地下鉄で移動。長距離は高速バスが快適。

治安について	日本と同じくらい良い。交通量が多いという点は危険。
保険について	『たびほ』の留学保険
医療機関・薬について	とくになし
気候と服装について	9月10月は暑い。11月12月初めは雨季と被ってコートが必要くらい寒くなったが、12月後半からは比較的晴れの日が多く、少し肌寒い程度だった。
普段の買い物について	大学・寮の近くに、コンビニ・日用品店・服屋・飲食店等、何でもある
娯楽・行事について	9月下旬の中秋節では、友人とBBQをする文化がある
日本語の使用について	英語の次に日本語が習われているので、通じることが多い。
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	暑いので、半ズボン・サンダルを着用することが多かったのだが、虫よけや虫刺され用のムヒが必要。大学内は自然が多く、ダニのような虫によく刺された。
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	語学
その他	

#### 6. 就職活動に関する情報

留学前の就職活動について(セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等)	休学して就職活動を1年遅らせたが、合同説明会には1年早いスケジュールで参加していた。自己分析もある程度していたが、本選考のエントリーはしていない。
留学中の就職活動について(海外からの情報収集、企業へのコンタクト、インターンシップ等)	とくになし。台湾のベンチャー企業でインターンシップに参加予定だったが、諸事情で無しになった。

#### 7. 語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	TOEFL 対策のみ。中国語は基本文法だけ学習した。
留学中の学習方法、工夫したこと等	授業にはほとんど全て出席した。土日どちらかは図書館にこもって課題や復習をすることが多かった。
留学後にどれくらい語学力が伸びたか(主観的な実感や具体的なスコア等)	英語のスピーキング能力があがった。TOEIC・TOEFL は帰国後受けていないのでわからない。

#### 8. その他

留学して得られたこと	英語のリスニング・スピーキング力、自己管理能力
留学中に困ったこと	交通量が非常に多く、排気ガスで頭痛やのどの痛みで悩まされることがあった

留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	とくになし
-----------------------	-------

#### 9. 留学体験談・エッセイ（様式任意）

留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を1～2ページ(様式任意)で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚(本人も映っているもの)も合わせて提出してください(国際交流室のHPやNewsletterに掲載させていただく可能性があります)。

留学を決めた理由は、ずっと実家暮らしで海外旅行にも行ったことがなかったので、長期間、異なる環境で生活してみたかったからです。経済的な理由で、欧米への留学は難しいと思っていたところ、台湾大学との協定を見つけました。

台湾大学で授業を初めて受けたとき、「予想以上に理解できる」と思いました。台湾大学の英語で開講されている授業は、英語のネイティブスピーカーだけを対象としているわけではありません。台湾人で、英語で開講される授業に挑戦してみようとする学生を主に対象としています。そのため、教授は、第二言語として英語を習得した学生でも十分わかる英語で講義を進めてくれます。一番苦勞した授業は、**Principle of Economics**です。1年生向けの授業なので、内容は基礎的な経済学なのですが、毎週、グループワークで経済実験に参加したり、課題をこなす必要がありました。中間・期末テストは、最新のニュースを経済学の視点から読み解くというものであり、付け焼刃では答えられないようになっていました。この授業のおかげで、自然と、ニュースを読み世界の経済動向に目を向けるようになったので、苦勞した分、ためになったと実感しました。

中国語の授業について。わたしは初級クラスに振り分けられました。クラスメイトはヨーロッパからの留学生が多く、日本人は1人だけいました。講義というより、みんなで歌ったりゲームをしながら中国語を感覚的に習得していきました。なにより友人がたくさんできたのが嬉しかったです。

サークルはジャグリングサークルに所属しました。中国・台湾で盛んな、ディアボロというジャグリングの一種を習得しました。1 Semesterしか在籍しないわたしを快くメンバーとして受け入れてくれ、一緒にBBQやクリスマスパーティをしたのが良い思い出です。

交換留学というと、語学留学より難しいイメージがあるかもしれませんが、挑戦してみれば大それたことではありません。わたしは他の多くの阪大生と同様、英語のリーディングはそこそこできるが、リスニングは苦手、スピーキングは全く、というレベルでした。台湾には英語力を向上させながら、中国語も学ぶ環境が整っています。その上、台湾でトップである台湾大学で、レベルの高い学生たちに刺激を受けることができます。親日で、治安も比較的良いので、海外経験の少ない学生にもオススメです。是非挑戦してみてください。